

## 会議の概要（議事録）

会議の名称	(番号) 3-08	平成25年度第10回すみだ環境共創区民会議		
開催日時	平成26年1月16日(木) 18時30分から20時00分まで			
開催場所	墨田区役所3階 31会議室			
出席者数	<b>【委員12人】</b> 池田委員    宇田川委員    笠貫委員    小木曾会長    島崎委員 永岡副会長    野島委員    本間委員    松本委員    森下委員 柳委員    横井委員 <b>【事務局3人】</b> 環境保全課長、環境管理担当主査及び職員			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	0名	
議 題	1 すみだ環境共創プラン<改定版>基本目標2・4について 2 その他			
会議概要	1 すみだ環境共創プラン<改定版>基本目標2・4について すみだ環境共創プラン<改定版>基本目標2・4について、会長より「ごみの分別」と「生ごみの処理」の2回目の意見交換を行う旨の説明があった。 また、墨田区における「生ごみの堆肥化について」、事務局から説明があった。  ○墨田区の生ごみの堆肥化について 1 公共施設の生ごみリサイクル事業 (1) 温風乾燥式生ごみ処理機(平成21年度終了) (2) 生ごみ処理施設回収方式 2 家庭用生ごみ処理機のあっせん 3 生ごみ減量作戦 4 不用園芸土の再生  <b>【主な意見等】</b> ●家庭用生ごみ処理機の24年度のあっせん実績が0台とあるが、どのようなことが考えられるのか。 ○あっせん価格は事前にあっせん業者と取決めをするが、民間企業の価格に比べ決して安くなっていない。量販店等、民間企業と価格を争うことはしていない。 ●家庭用生ごみ処理機のあっせんについて、現状を見ていると、継続しても普及しないと感じる。講習会を受講した人に、無料で貸し出す等の工夫が必要と感じる。 あっせん事業については、今後、あっせん事業を継続することが本当に正しいのか、再考する必要がある。			

●学習園でも生ごみの堆肥化をやってみたいと考えている。講習会も受けたが、機器やそれに使う菌(発酵促進剤)の値段も高く、結構経費がかかる。講習を受けた機器は、学習園の規模としては小さかった。できたたい肥の効果的な使い道もなかった。

●生ごみの堆肥化には、微生物等を使った方法もある。その他、色々な方法があるので、先進自治体を参考にしてみたい。

●以前、落ち葉を使って堆肥化をしたが、失敗した。さくらの葉を使ったが、臭いが出た。特に夏場は臭いの問題がある。

●臭いは水分が原因だと思う。家庭では、一晩、ザルを使って水切りをして、洗濯ネットに入れて吊るし、乾燥させている。今、水切りをして生ごみを出しましょうと言っているようでは、時代遅れ。今、各自治体はごみゼロを目標として、生ごみは捨てない、燃やさないことを目指している。

●3.11以降、放射能等を心配して、にんじん等、皮を剥くようになった。以前は、ごみの減量等のため、皮をそのまま使っていた。以前に逆戻りした。今は野菜を水洗いして、皮を剥いている。

●家庭用生ごみ処理機のあっせんについては、24年度実績が0台。また、生ごみ減量作戦は、NPO法人の消滅により25年度の実績はないということだが、代替りの団体を探すなど、今後の考え方はどのようになっているのか。

○家庭用生ごみ処理機のあっせんについては、清掃事務所がホームページ等で事業を紹介し、環境ふれあい館に機器を展示している。24年度の実績は0台であったが、25年度に1台のあっせん実績がある。あっせん事業はこのまま休止する訳ではなく、継続していく。また、生ごみ減量作戦について、NPO法人の消滅により25年度の実績がないことについては、その団体の代替を探す等の今後の考え方について、清掃事務所に確認をして、次回の定例会で報告させていただく。

●ごみの分別等を考えたとき、生ごみの堆肥化だけにスポットをあてることはおかしいと思う。費用対効果だけを考えれば、燃やした方が良い。堆肥化をするならば、できた堆肥の使い道も考えていかなければいけない。使い道が見つからないため、関心が持たれない。堆肥化ありきではなく、ごみの減量のため、区民にどのような周知をしていくのか、啓発活動をしていくのか、その一環として生ごみの堆肥化を捕らえていかなければいけない。区でも、燃やすごみの内、生ごみがどのくらいの割合を占めているのか、データとして掴んでいないと思う。

○今、詳しいデータを持ち合わせていないが、組成調査を実施している。

●これまで環境対策にコストを懸けずにきたため、環境破壊に繋がった。環境を保全するためには、費用対効果、効率だけでは成り立たない。

●費用対効果とは、経済的な効果だけではなく、意識啓発等による教育面での効果も含まれている。

○生ごみ処理施設回収方式については、当初、プロポーザルにより業者を選定するにあたり、施設見学や教育教材となる生ごみの飼料化の過程がDVD等で提供可能な業者で、環境教育に関して効果が期待可能なことを選定理由の一つとしていた。

●生ごみの堆肥化が子どもの教育に繋がれば、その経費は無駄ではない。

●ごみは身近な問題であるので、ごみの減量のためには、生ごみの水切りが効果的であ

れば、広まっていくと思う。節電の普及のため、色々な方法を紹介したように、生ごみの堆肥化や水切り等、ごみの減量をするための色々な方法をPR・周知のため取りまとめをすることも必要だと思う。商店やレストラン等への周知も必要かと思う。

また、再生可能エネルギーについて、市民ファンド等を活用して公共施設への設置や区民と事業者を取り込んだ取組みができれば良いと思う。

雨水タンクについて、大規模な設備が好ましいが、天水尊のデザインを再考して、マンション等へ普及できれば良いと思う。

●学校給食の残渣等は、増えているのか。食べ物は粗末にはいけない。

○残飯については、減らしていかなければいけない。

●今の給食は、初め少量しか配らない。少食の子どもに合わせて配っている。その後、もっと食べられる子は御代わりをしている。なるべく残飯を出さないように工夫している。

●学習園で生ごみの堆肥化ができる体制を整えてもらいたい。見学者も多く来るので、PRにも繋がる。今後、サポーターの団体に提案していきたい。

●学習園では、不用になった園芸用の土を再生している。

●教育や啓蒙等にこだわって区民が変わるのを待っていては、時間が掛かる。中々動いてくれない。小さなレベルの取組みでも、先ずシステムを作っていかなければいけない。

●生ごみの減量のため、かごを2つ使ってお茶がら等の水切りをしている。最後は新聞紙を使って水を切っている。生ごみの扱い方を区民の方から募ってはどうか。懸賞を付けて募集すれば、興味を持ってもらえるのではないかと思う。

●清掃事務所で作成した「資源物とごみの分け方・出し方(保全版)」には、水切りについて記載されているのか。広く関心を持ってもらいたいが、宣伝・PRが不足していると思う。

●区のお知らせの余白に1コマでも良いから、生ごみの水切りについて、掲載した方が良い。

●水切りについては、かなり浸透していると思う。建築業界でも分別が問題となっている。分別して廃材を再利用することも考えている。解体経費が2割・3割から5割も高騰している。

●ごみの減量については、生産抑制と排出抑制が考えられる。生産抑制については、企業の立場では難しいと思う。排出抑制については、リサイクルの3Rが考えられるが、ごみにしないリデュースやリユースの時代だと思う。どのように排出抑制して行くのが問題だと思う。小・中学校で生ごみ処理をしていることはとても良いことだと思うが、その循環システムが分かるしくみが大事だと思う。毎日の生活で、親が賞味期限の新しいものを棚の奥から選ぶ姿を見た子どもも親と同じようになってしまう。大人が先ず変わらなければいけない。食品ロスをなくすためにも、不用な買いだめは控えた方が良い。

所 管 課

区民活動推進部 環境担当 環境保全課 環境管理担当 内線 5463